



# ぎんなん便り

2013年7月



## VOL. 6

行社 wanpaug

夏真っ盛りのシーズンになって参りました。みなさん、暑さに負けずに、夏を楽しみましょう！

さて、今月のぎんなん便りは、毎号会員の皆様からいただいている素敵な「患者の独り言」に刺激を受けて、編集者が「編集者の独り言」を書かせていただきました。



### 編集者の独り言

私は、昨年の夏からぎんなんの会に参加させていただき、この「ぎんなん便り」の編集のお手伝いをさせていただいています。現在は大学院で学生として勉強をしていますが、数年前までは病院の外科病棟で約7年間、看護師として働いていました。

私が看護師を志すきっかけになった出来事は2つあります。1つ目は、幼少の頃、病院にお世話になったときに看護師さんが優しく接して下さったことです。入院中に心細く思っていると優しい笑顔で声をかけてくれた看護師さんにあこがれを持っていました。

2つ目の出来事は、高校時代の友人が白血病になったことです。約1年ほどの休学期間を終えて久しぶりに登校した友人は、以前よりかなり痩せていて、抗がん剤の副作用への対応のためか、ウィッグ(かつら)をかぶっており、多くの時間、マスクを装着していましたが、明るくニコニコ笑ってました。病を乗り越え、生きることの素晴らしさを知った友人とともに過ごす学生生活の中で、友人のように病気になった患者さんを支えるような仕事につきたいと思いました。

実際に看護師として働くようになってからは、手術をのりこえて回復される患者さんに間近で関わらせていただく中で、人間の生命力の強さを感じ、少しでも患者さんの回復をお手伝いできるような看護が出来たらと思っていました。やりがいを感じると同時に、人間の生死に関わる仕事であるため責任を重く感じ、特にスムーズに回復できなかった患者さんに関わらせていただいた際は、自分たちが行った看護が本当によかったのだろうか、と迷ったり悩んだりする機会が増えました。

そんな時、ふと、看護師が行う看護という仕事について考えてみました。看護師は、医師とは違い、診断を下すわけではなく、手術をするわけでもなく、薬を処方することもできません。しかし、看護師にしかできない仕事があります。それをもう一度、経験や感覚といったものではなく、根拠に基づいたものとして学びたいと思い、大学院への進学を決めました。

さて、大学院とはどんなところでしょう。学校教育法によると、「大学院とは、大学の学部課程の上に設けられ、大学を卒業した人、およびこれと同等以上の学力を有すると認められた者を対象

に、学術の理論および応用を教育研究し、文化の進展に寄与することを目的とするものである」とされています。

私が在学している博士前期課程は2年間のコースで、全国から看護師免許を有する院生が集まっています。授業もありますが、私たち大学院生が主に行っているのは研究です。研究手法も沢山あり、大学院生によって行っていることは全然違います。

私が行っている研究は、手術前の食道がんの患者さんに食生活に関することです。手術前の栄養状態は術後の回復に非常に影響があると言われています。そのため、患者さんが自宅で手術を待機している期間の食生活をサポートする必要があります。

患者さんからいただいた貴重なお話を大切にしながら、今後の看護や医療に役立てることが出来るよう、研究を進めていきたいと思えます。

最後になりましたが、ぎんなんの会を通して多くの会員の皆様に出会う機会をいただきましたことに深く感謝いたします。皆様と過ごす「ミニ患者会」は、1人の人間として非常に楽しく過ごすことができる場所であり、看護師としても非常に学ばせていただくことが多い場所です。

これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

(編集者：北野愛子)



## 「リボンの騎士 ナイト2013」が行われました

7月7日、日曜日。七夕の日に、大阪・エルセラーンホールにて「第5回 リボンの騎士ナイト2013」が行われました。

リボンの騎士ナイトは、がん撲滅・啓発イベントで、第一部はばんばひろふみさんのライブ、第二部はがん専門の医師と患者がトークショー、その他、専門家による相談支援コーナーやピアサポートコーナー、抽選会などで構成されています。

今回、リボンの騎士ナイトを企画・制作してくださっているロンマリ・プロジェクトのお2人から、メッセージをいただきました。

### 「リボンの騎士 ナイト」への思い

「“がん”と云う病気は知っているけれど、私には関係ない」と思っている人達に早期検診・発見・治療を訴えるイベントをしよう！

フリーアナウンサーだからこそできる訴え方があるはず！

ごくごく単純な、けれど揺るぎ無い気持ちで始めたこのイベントも今年5回目を迎えました。タイトルの由来は、〇〇リボンと名付けられたがんが十数個あると云う事から、リボンと云えば「リボンの騎士」。しかしこのままでは手塚治虫さんに何か言われるかも…。じゃあ、騎士は英語でナイトだから「リボンの騎士 ナイト」と、まるで最初から決まっていたかの様な速さで命名されました。

普通の医療関係のセミナーや講座にはない、エンターテイメントを入れる事。がんの話は、ラ

ジオ番組のトークショーの様にして患者さんとドクターに生の気持ち、生の声を聴かせて貰おう！と云うのが、“ロンマリらしいイベント”

という思いでスタートしました。

第一回は「そごう劇場」でした。第一部・第二部と進み、最後の抽選会のと看でした。会場内で大きな声でテキパキとお手伝いして下さっているぎんなんの皆さんが、本当に気持ちいいくらい明るかったので思わず「今お手伝いして下さっているのは、皆さんがん患者さんなんです！」と紹介しました。すると会場から“わー！”という歓声と拍手が起こったのです。この時、「あー！このイベントをして良かった！続けよう！」と素直に感動しました。

知らない者からみると、がんに罹った人が治療をしながらもこんなに元気に、楽しそうに声をだしているなんて思ってもいかなかったからです。これだけでも、このイベントをした意味は充分あった！と思いましたし、こういう事を知って貰いたい！だから続けるべきだと確信しました。

それからは、毎看終わる度に反省だらけです。だからこそ、ここまで来られたのかも知れません。来年こそは、お客様にご迷惑をおかけしない様に！そして本当に楽しんで頂きたい！この思いが原動力になっています。

第一部はエンターテイメントで楽しんで頂き、第二部は患者とドクターのトークショー。実際に治療する側とされる側の生の声は、心に響きます。インタビューしながら必死で涙をこらえている時もあります。そんなお話を公の場で話して下さる患者さんに感謝すると共に、そのお気持ちを無駄にはさせない！と云う強い思いが回を重ねる毎に増していきます。実行委員会を立ち上げた今年は、小さな一步前進を感じました。来年はもっともっと多くの人達に知って頂く、来て頂く事が課題です。あと10年したら、満足のいく「リボンの騎士 ナイト」になっているのかなあ…。



(ロンマリ・プロジェクト 蘭田涼子・紀平真理)

リボンの騎士ナイトは来年同じ場所で7月6日に決まっています。魅力ある企画を検討中です、みなさんふるってご参加ください。



## 患者の独り言

### おまけの人生/小林紀代子

今日も笑顔で一日過ごせた。いろいろな事があるけど♪ケセラ セラ♪  
いつも笑顔でいるのが私の心性。おかげで幸せです。

大阪市立大学病院患者サポートの会「ぎんなん」の会員の皆様の行動力には感服いたします。私も会員だけど・・・体力がなく歯がゆいです。

4年前(平成21年12月)72歳の時、先天性動脈管開在あり、その先の検査で偶然、上行大動脈瘤が見つかり、心臓止め骨切り開き(アジのひらきみたい)を受けました。

人工血管13cmほど取り替え10時間以上の大手術でした。

主治医の細野光治先生は、お正月3が日も含め、毎日病室に来てくださって、本当に嬉しかったです。感謝しています。

喉の片方（喉頭）が麻痺しましたが、そのほかは順調に回復し、2か月で退院しました。  
夜は自宅で在宅酸素吸入しています。

「病（や）めるとも 孫との談笑 春近し」

平成22年2月、退院前に孫が見舞いに来てくれた時の1句です。

一難去ってまた一難。

平成23年3月、右側の肩が「肩こりかな」と感じ、念のため、乳腺検査を受けたところ、左側にステージIの乳がんが見つかり、膠原病（強皮症）のため放射線治療が受けられず、全摘との説明を受けました。

私「いやや」

川尻茂美先生「10時間もかかる手術を受けたのに、こんなの1時間で済むよ」  
先生に後押ししていただき、手術後は一度も痛むことなく1週間で退院しました。

今年、2年目も無事検査をクリアでき、先生に感謝です。

がんと聞いたときは、意外に恐怖感もなく、「どんなウィッグ（かつら）かぶろうかな・・・」  
と考えていたなんて、呑気ものでしょう、ハハハハ。

知人たちにも早期だと抗がん剤もいらぬのよ、と吹聴しています。

ヤクルトアカデミー教室の布遊び講師も辞め、市大縫製活動ボランティア（はりねずみ）で微力ながら悦己悦人の物作を楽しんでいます。

主人は、お酒もたばこも嗜まなかったのに、胃がんのため38歳で天国へ。

単身赴任して、もはや42年経ちます。私は、血管破裂即死を免れ、今年76歳。

ちょうど、主人の倍、歳を重ねました。

もう、おまけの人生を送っている私へ主人から超特急の片道切符が届くのを待っています。（ドタキャンはしませんから。）

子供3人、孫7人。みんなで労わってくれて幸せです。

笑顔でいましょう。



毎週木曜日、13時から16時半まで市大病院1階奥の化学療法センター前がんコーナーにて「サイバーによるミニ患者会」を開催しています。  
心配なこと・誰かに聞いてほしいこと・教えてほしいこと・知りたいこと・思ったこと・困ったことなど、どんな些細なことでもいいですので、気軽に気持ちをお伝えください。どなたでも、時間内ならいつでも参加自由です。

大阪市立大学医学部附属病院がん患者サポートの会「ぎんなん」ホームページ

<http://cscginnan.com/>

お問い合わせ先：メールアドレス gankangin@cscginnan.com



編集者 北野愛子 発行人 辻恵美子